

【ねがいましては】

令和3年10月25日
第370号

KYOWA SCHOOL

「加害者と被害者」

ある日の新聞に教育政策研究所がおこなったある調査結果が載っていました。2016年から18年にかけて、小4から中3、4千人を対象にしたものです。調査方法はアンケート式で、1度でも経験があれば「ある」と回答するものだそうです。結果です。小学生、被害経験者87%、加害経験者86%、中学生、被害経験者68%、加害経験者64%でした。この数字をご覧になってどうお感じになりましたか。

これは何を調査した数字だと思われませんか。被害者・加害者で気づかれたと思いますがこたえは『いじめ』です。

私は驚きました。このいじめについては、暴力を伴うもののほかに、陰口や無視といったものも含まれます。ほとんどに近い子どもたちが人間関係で悩んでいると言っても言い過ぎではなさそうです。実はこのデータ、前回の調査よりも減っているのだそうです。小学生、被害ポイントは7割、加害ポイントは17割の減、中学生、被害経験は3割減、加害経験は8割減です。いずれも2010年～12年の調査です。減っています。

減ってこの数字なのです。(数値に矛盾点がありますが、ここでは触れません)

私は加害者の数字に疑問を抱きました。小学生の加害者86%は、「一度でも」が条件に入っています。この「一度」なのですが、小学生たちにとって「いじめ」とはどのようなものなのかははっきりしていない時期があります。子どもたちはよく「まね」をします。その方が仲間意識を共有できるという感覚を結構早期に獲得します。例えばテレビのお笑いであげたギャグなどをみんなの前で披露したりすると、周りの子たちもまねをしてしゃべったり格好を試みたりです。すると仲間意識が芽生え楽しさが倍増したりします。かなり昔だと思うのですが、ドリフターズが全盛期にあった頃「カトチャンペツ」だとか「ダッフンダ」などあったと思いますが・・・それを学校の休み時間にやって見せたりです。

ですからまねをするという行為は学校生活の中では日常的になっています。何が悪いか、何が良いかということは二の次になります。

これは私の小学校時代の思い出なのですが、ある日、廊下に私を含め上級生たちが壁一列に並んでいます。そこへ下級生たちが走ってきます。そこへ周りにいた男の子たちが目の前を走り去る下級生たちの前に足をさっと出すのですね。何が起るか・・・。当然その足につまずいて転びそうになる子、本当に転んでしまう子。私も周りのその行為に促され、ついまねをしてしまいました。「さっ」、偶然前を走り去ろうとした女の子は「ドスン」と転びました。そして声を上げて泣き出しました。もうそれだけで私は罪の意識100%です。転んだ子はきっと「いじめられた」と感じたと思います。私はその時思いました。「もう二度と足など出さない。」猛反省です。その時以来、いじめ、またいじめに似た行為がどれほど罪の大きいものなのかを教訓として感じ取ることが出来ました。その後は言うまでもありません。

このような体験から、1度はいじめ、またはそれに似た行為をしたかもしれないけれど、それ以後はその罪の大きさに気づき、2度目はしない子どもも多数いると思うのです。本当にあってはならないのが、悪いと知っていながらその行為に及んでしまうことです。しかしその行為にしてみても、その原因となるこころの中身をしっかりと周りの大人たちが理解してあげることが大切ではないでしょうか。

子どもたちはかなり純粋だと私は思っています。どうしようもないつらいことを真正面から受け止めてしまい、そのつらさを受け止めきれず整理できずに爆発させてしまう子どもも多くいると思います。

毎日が戦場、あてもなくさまよっている状態なのかもしれません。その状態が続き、なにもかも信じられなくなってしまった時がその時なのかもしれません。

解決には「理解者」が必要です。こころに寄り添う「ひと」が必要です。

「なにがあつたんだい」といって、そつと語りかけてあげる存在が必要です。その存在に最も相応しい方がいらっしやいます。それが「お母さん」になります。訳あってお母さんがいらっしやらないお子さんには「お父さん」がその存在になります。訳あってご両親ともにいらっしやらないお子さんには・・・。

お子さんが「自分にはお母さんもお父さんもいない。」と、感じたときにも同様なことが起こります。ひょっとすると、その時がいじめが悪いことだと分かっている、どうしようもなく体が、こころが動いてしまうのかもしれない。

絶対に子どもをひとりぼっちにしてはならない。

「なにがあつたんだい」・・・返事があってもなくても根気よく「なにがあつたんだい」・・・。

その一言は、子どもたちだけに留まりません。お子さんの方から、お母さんやお父さんへ「ねえ、なにかあつたの」と、声がかかったら・・・それだけでこころは温まりませんか？

学校の中は今や「戦場」と化しています。そう思っている子たちが多くいます。

「いじめられた」と感じている子が7～8割もいます。

学校から帰ってきたときに、「おかえり」と言って出迎えてくれる方がいるだけで、きっと・・・。